OTO×NOMA

DTM講座

歌モノ楽曲制作
解説セミナー2

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

今日の講義内容

① はじめに

②「Longing」コンセプト紹介

③「Longing」各トラック説明

④「Longing」サウンドメイク～ミックス

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

はじめに

前回に続き、僕のM3出展作から、2曲目の「Longing」を解説します。

皆さんの添削をしていて、細かいテクニックや音作りはさておき、一曲を作り上げるまでの全体の流れが掴めてないんだろうな～と感じる事がちらほらありました。そういった**「全体の流れ」をお伝え出来れば幸いです。**

前回は2曲を解説して、かなり駆け足になってしまいしたが、今回は1曲を丁寧に解説したいと思います。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

コンセプト紹介

「Longing」 コンセプト

◎インスピレーションを受けた作品
　漫画「一本花」by 横槍メンゴ
https://ynjn.jp/app/title?tid=784

　憧れの存在だった彼女。平凡な私なんかよりずっと輝いていたはずだったのに、どこかでボタンを掛け違えた？何も出来なかった悔しさは一生忘れないだろう。そして私は今日も漫画を描き続ける。

楽曲はテンポ速めのワルツで、ケルト調にアレンジした。

◎リファレンス曲
　「夏の林檎」by Kalafina
https://youtu.be/OE9BXmI4OMY

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

ドラム

BFD 3（Platinum Samples Joe Barresi Evil Drums）
https://www.platinumsamples.com/JoeBarresi.php

--- Mono ---
Kick
Snare
Hat

--- Stereo ---

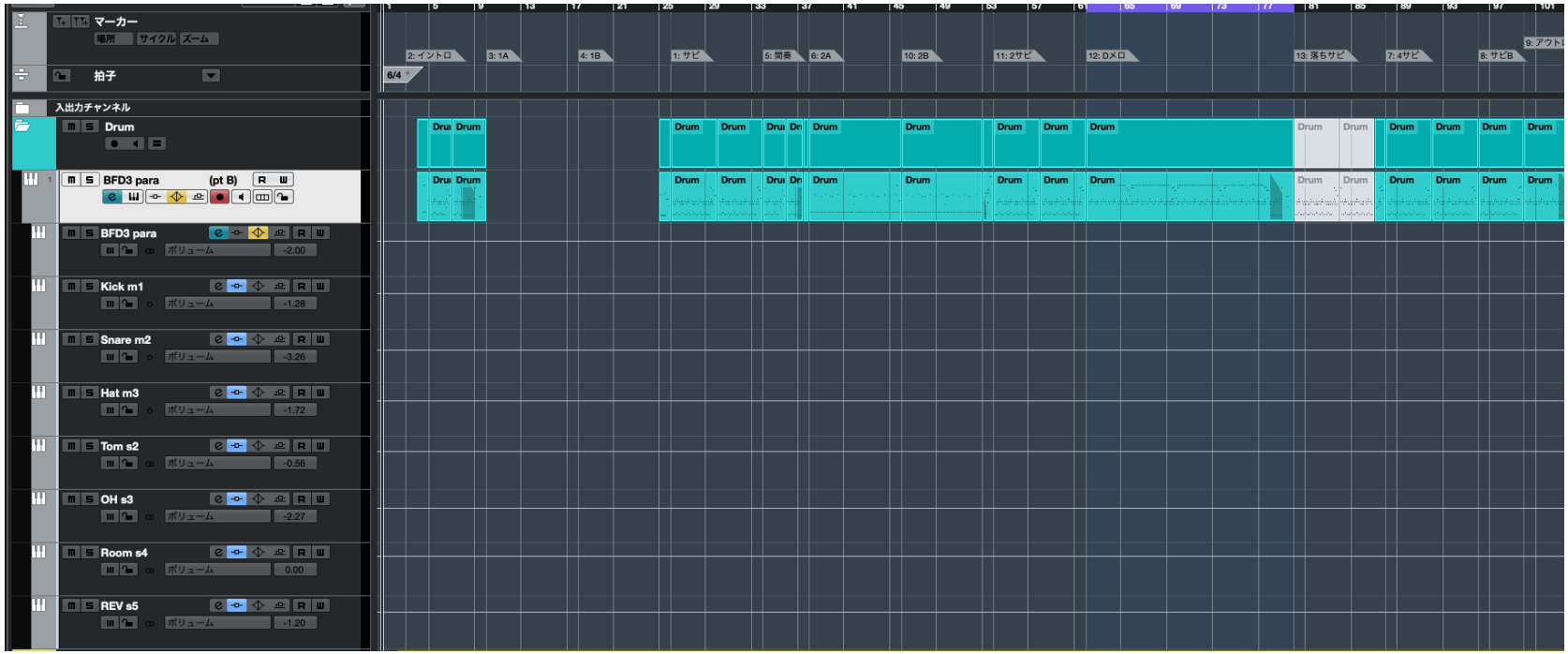
Tom	（Hi, Mid, Low）
OH	（Cymbal 含む）
Room	（Comp mono 含む）
REV	

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

ドラム



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

パーカッション

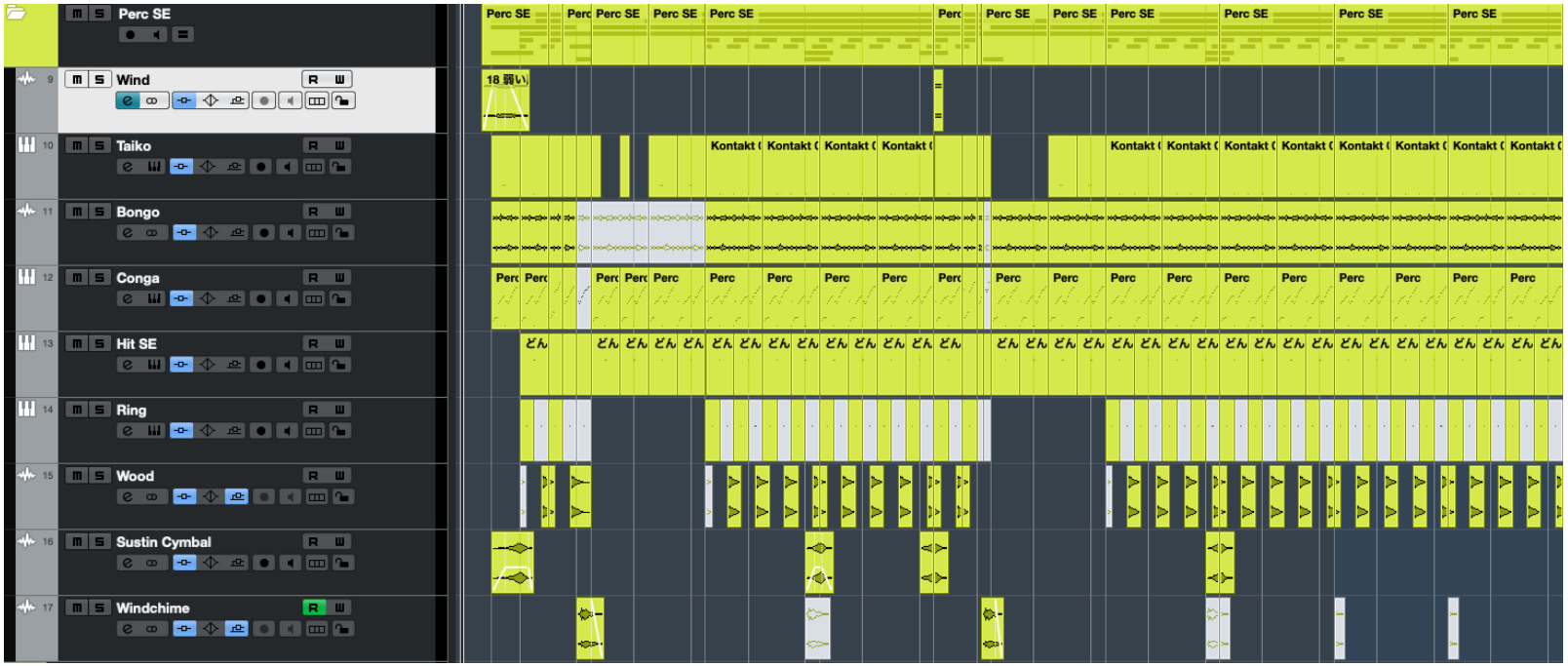
Wind	サンプル（効果音CD）
Taiko	Native Instruments Action Strikes
Bongo	サンプル
Conga	Spectrasonic Stylus RMX
Hit SE	Heavyocity Evolve
Ring	Toontracks EZ Drummer 2（Latain Percussion）
Wood	サンプル
Sustin Cymbal	サンプル
Windchime	サンプル

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

パーカッション



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

ベース

Bass1	生　Fender American Vintage JB（プリプロ時録音）
Bass2	生　Fender American Deluxe JB（本ちゃん録音）

ギター

Gt Arp	Jose Antonio ガット
Gt Stroke	Jose Antonio ガット
12st Gt	Guild F-112（1976）
Mandolin	Gibson A-40（1962）
Mandolin 2	Gibson A-40（1962）

キーボード

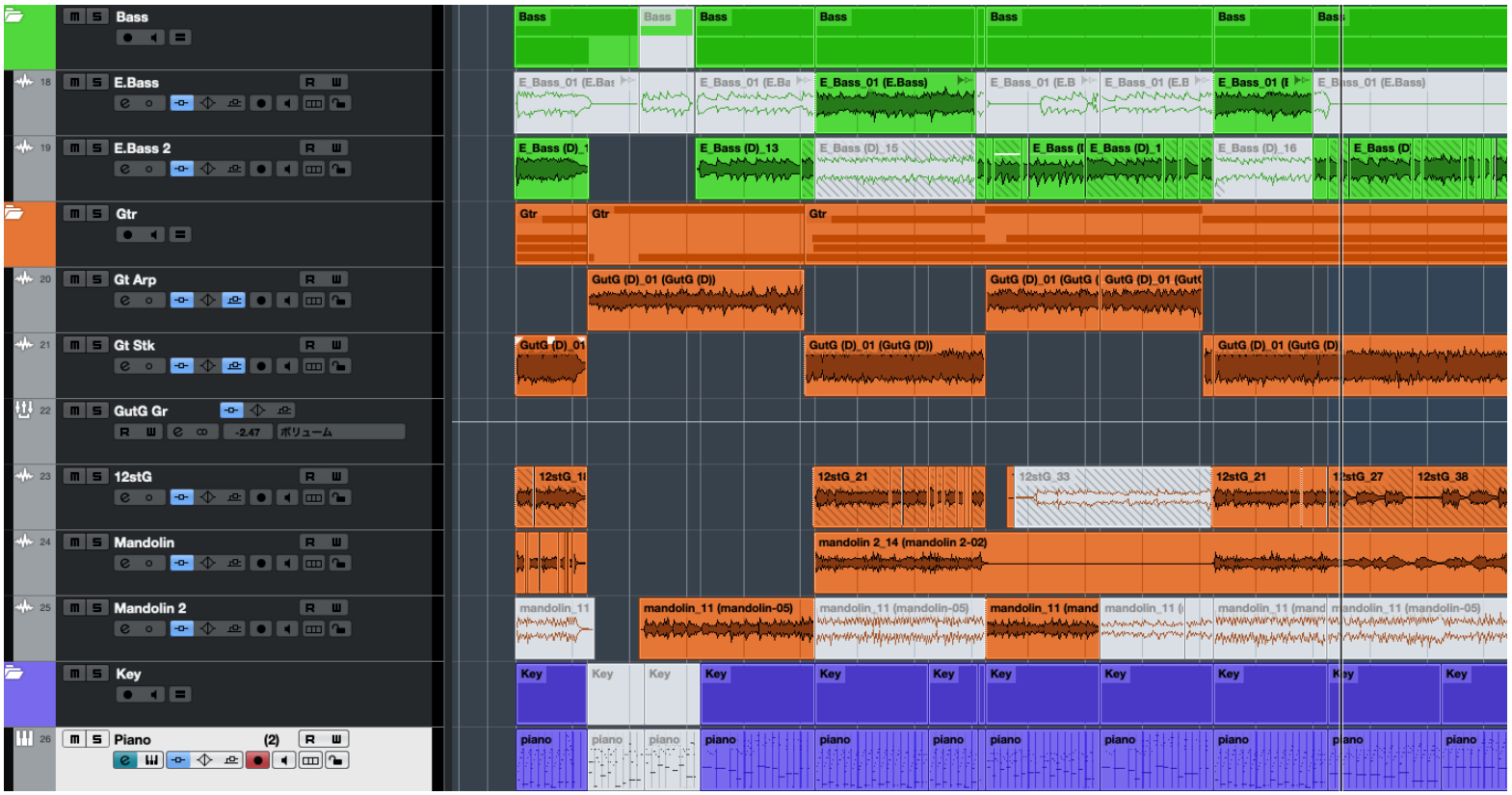
Piano	XLN Audio Addictive Keys

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

ベース、ギター、キーボード



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

インストルメント

Bandneon	Kontakt 5 Factory Library
Irish Whistle	Ethno World 5

ストリングス

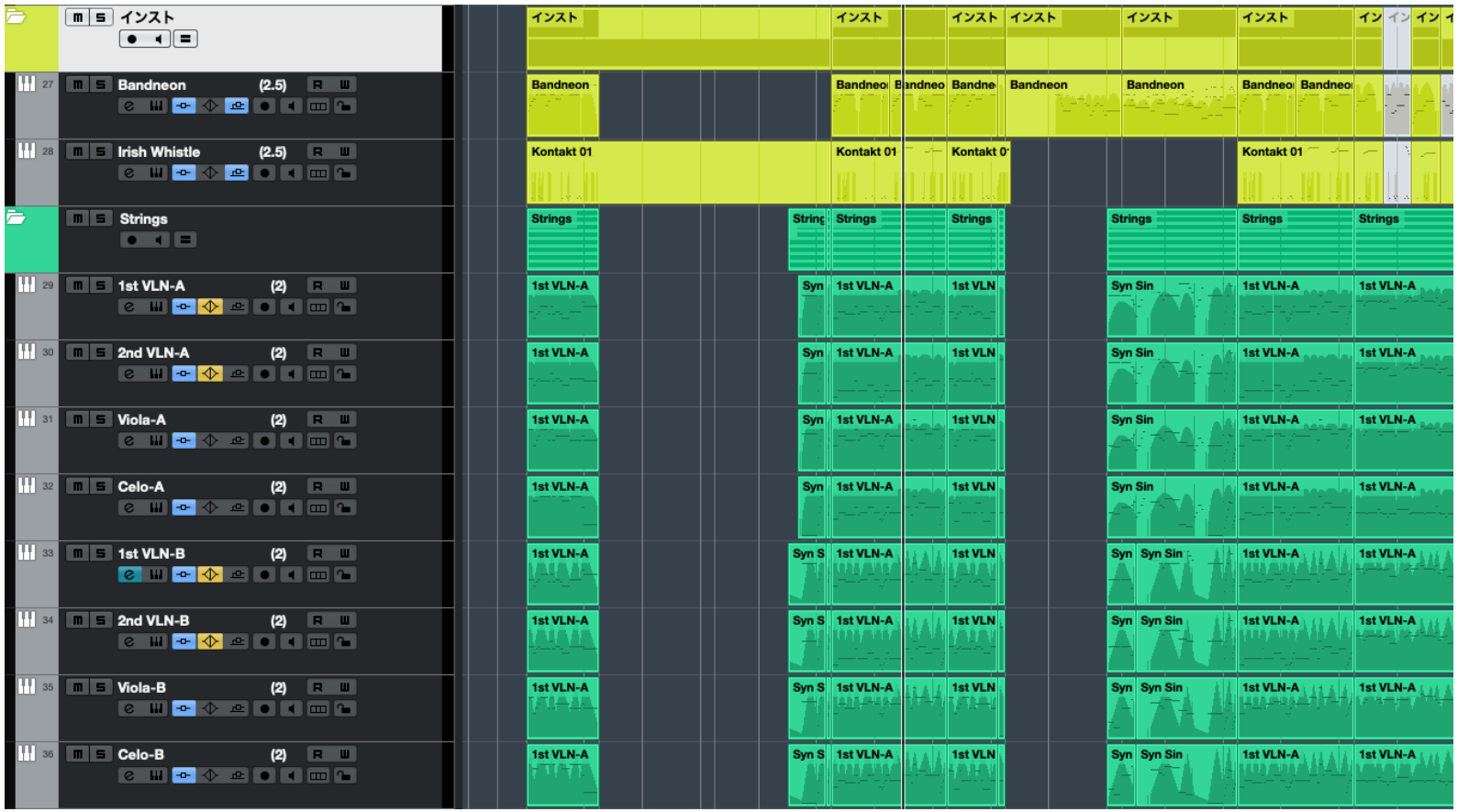
Vienna Chamber Strings
--- Pref Legato, 他（キースイッチ） ---
1st Vl
2nd Vl
Vla
Vc
--- Sus Espr ---
1st Vl B
2nd Vl B
Vla B
Vc B

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

インストルメント、ストリングス



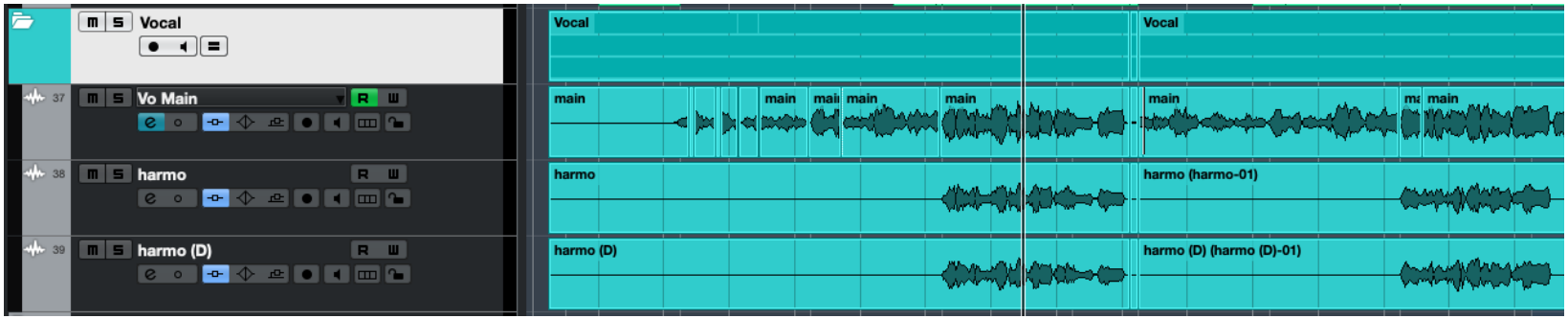
©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

トラック説明

ボーカル

Vo Main
Hamo
Hamo D



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

1曲目　トラック説明

FX

Rev Room	Waves TrueVerb
Rev Hall	UAD Lexicon 480L
Rev Vo	UAD EMT 140
Dly Short（125ms）	Steinberg Stereo Delay
Dly 1/8	Soundtoys Echo Boy

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

サウンドメイク

■ドラムキット
BFD 3 を使ったナチュラルなバンド系ドラム。Joe Barresi のライブラリを使用。

・キック
BFD内のIN、OUTのバランスで音色決め。OUTはアタック担当でローカットを強めに。コンプでしっかりタイトに。
サチュレーター → コンプ → EQ →ベースエンハンサー

・スネア
BFD内でのリバーブも音色として重要。コンプでタイトに。
サチュレーター → EQ → コンプ → EQ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

・ハット
不要なローは強めにカット。クローズ/オープンの差が
自然になる様に、強目のRATIOでコンプ。
サチュレーター → EQ → コンプ

・タム
ローカットと弱目のコンプ。
サチュレーター → EQ → コンプ

あとは、オーバーヘッド、ルーム、リバーブとバランスを
とっていき、バスにまとめてFETコンプでキット全体を
歪ませる。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

■パーカッション

基本はサチュレーターとローカットのみ。必要がある場合以外は大きく音作りはしない。

・Hit SE
Evolveのヒット音にOTTと極端なEQ、超ロングリバーブでSEを作成。

・Sustin Cymbal、Windchime
Cubaseの機能やオートメーションで、フェードイン/アウト、パンの動きなどを制御。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

■ベース
エレキベース。録音日により2パートあり。（一部、プリプロより良い感じに録れなかったため）

--- 録音方法 ---
ベース → DI（Avalon） →I/F内でOPTコンプ（LA-2A）

--- 音作り ---
軽いローカット、ローミッドのカット、コンプのみ。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

■ガットギター

--- 録音方法 ---

Jose Antonio 12C（スペイン製）をAKG C414 で録音。
基本、伴奏パート。アルペジオとストロークでトラックを
分けた。

--- 音作り ---

大まかな音作りにアナログ系EQ、不要な帯域カットにデジタル
系EQと使い分け。コンプもアナログOPT系と、クセのないものと
2段がけ。

サチュレーター → EQ → EQ → コンプ → コンプ

これらをグループにまとめて、さらにコンプ2系統。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

サウンドメイク

■12弦ギター

--- 録音方法 ---

Guild F-112（70年代ビンテージ）をAKG C414 で録音。
基本、マンドリンと左右でオブリを担当。

--- 音作り ---

ガットギター同様、EQ、コンプを2種類使用。

サチュレーター → EQ → EQ → コンプ → コンプ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

サウンドメイク

■フラットマンドリン

--- 録音方法 ---

Gibson A-40（60年代ビンテージ）をAKG C414 で録音。
基本、12弦ギターと左右でオブリを担当。アレンジを
考えながらストローク中心の1と単音中心の2を録るが
概ねどちらか一方のみを使用。

--- 音作り ---

ガットギター同様、EQ、コンプを2種類使用。

サチュレーター → EQ → EQ → コンプ → コンプ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

サウンドメイク

■ピアノ

XLN Audio Addictive Keys。
ローカット/ざっくり音作り用のアナログ系EQ、強目の
FETコンプ（1176）、不要な帯域カット用のデジタル系EQ。

サチュレーター → EQ → コンプ → EQ

■バンドネオン（アコーディオン）

NI Kontakt。
音を強くするためにSausage Fatner、EQでローカット、
コンプ。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

■アイリッシュ・ホイッスル
Ethno World。
EQでローカット/ハイブースト、OPTコンプ。不要な帯域カット用のデジタル系EQ。

サチュレーター → EQ → コンプ → EQ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

■ストリングス

Vienna Chamber Strings。
基本音色にはPref Legato使用。Sus Espr
（エスプレシーボ、ビブラートの強い音色）が、抑揚が
強くなる箇所で混ざる様にレイヤー。

音作りは中高域がキツイ箇所のカットのみ。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

サウンドメイク

・Main Vocal
歌い手さんから宅録で納品。Cubase でリズムとピッチ修正。

ディエッサー → EQ（ローカット、音作り）→OPTコンプ
→FETコンプ →ダイナミックEQ（高域カット）×2
→EQ（カット） →アナログEQ（高域ブースト） →コンプ

高域がきつめの録音だったのでダイナミクEQ（F6）で制御。さらにF6を重ねて、部分的にオンになるようにオートメーション。

ラスト、ディレイとリバーブのセンド量をオートメーションでコントロール。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

1曲目サウンドメイク

・ハモ
左右でダブル。ピッチ補正、コンプ強め。タイミングは
メインVoに合わせる。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

ミックス

・トラックのルーティング

各楽器 → ステム（Drum、Percussion、Bass、Guitar、Key、Strings、Inst）→ オケ BUS→ マスター

ボーカル → ボーカルBUS → ボーカルAll BUS → マスター

コーラス →コーラスBUS → ボーカルAll BUS → マスター

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

ミックス

・Drum Bus
テープシミュレーターでアナログ感を出す。CLA-76（FET）を強目の設定でパンチを出す。SSL バスコンプでまとめる。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

ミックス

・Bass Bus
A800→ベースエンハンサー→SSLバスコンプ。
2パートをバスにまとめてるので。こちらでエンハンサー。
キックより少し上の75Hzをブースト。

・ギター Bus
A800→EQ（ローカット、ミッドハイをブースト）
→Renaissance Access（ギター、弦楽器向けと
言われているお手軽コンプ）をバスコンプに使用。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

ミックス

・キーボード Bus
A800→EQ（ローカット、ミッドハイをブースト）
→SSL バスコンプ

・ストリングス Bus
A800→PA SSL 4000E→SSL バスコンプ
存在感が弱かったため、Plugin Alliance のSSLチャンネルストリップをインサート。

・インスト Bus
SSL バスコンプ→インサートリバーブ
特に強いリバーブ 感が欲しく、2C Audio B2（IRリバーブ）をインサート。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA

ミックス

・Oke Bus
A800→Bx Townhouse バスコンプ
SSLバスコンプでも良いのだが、そうすると同じコンプの
2段がけになるので、同系統の違うコンプを使用。

・Vocal Bus
RVox→SSL EQ → SSL バスコンプ

最後のリバーブ、ディレイはオートメーションでだんだん深く

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

ミックス

・Vocal All Bus
A800

・マスター
EQ→マルチバンドコンプ→ →

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO ©Sigeru Aoyama

OTO×NOMA